



# EIZO ColorEdge CS2420 & Quick Color Match



## 《 フォトグラファーのためのこだわり機能が満載 》

### POINT 広い色域で写真が持つ本来の鮮やかさを損なわない

CS2420はAdobe RGBを99%カバーする色再現範囲を備えている。一般的なsRGB色域対応のディスプレイでは平坦になりがちな「抜けるような青空」や「鮮やかな新緑」といった色合いも写真データに忠実な鮮やかな色で再現してくれる



### POINT ベゼルがスリムになってさらに写真に集中できる

上下：18.3mm  
左右：17.3mm

従来からベゼル幅が薄いデザインを採用していたが、CS2420ではさらに左右のベゼル幅を17.3mmにまで縮めている。上下も18.3mmと従来から大幅にスリムになり、非常にすっきりとしたフォルムに仕上がっている

### POINT 画面周辺まで色みや明るさを均一に表示する

どんな液晶ディスプレイでも明るさや色みがばらつく輝度ムラや色ムラが発生する。CS2420にはそのムラを抑え、明るさと色みを画面全体で均一にするデジタルユニフォミティ補正回路が搭載されている。写真を表示するときには非常に助かる機能だ



### POINT 側面に便利で使いやすいUSB 3.0ポートを3つ装備

USB 3.0ポートは側面に3つ用意されている。側面のUSBポートのうち1つは高速充電に対応している。ディスプレイ前面のボタンからCHARGEモードを選択することで、スマートフォンなどの充電が高速で行える



**デ**ィスプレイに表示された写真の色合いとプリントの色がどうにも合わないという経験は誰しもあるだろう。これを解決するためにカラーマネジメントシステムを使ったカラーマッチング(色合わせ)の手法が存在するが、正確に行うためにはディスプレイ、レタッチソフト、プリンターのそれぞれで細かく設定しなくてはならない。設定の1つ1つはそれほど難しくないが、設定する項目が多いので初心者にはハードルが高いし、慣れた人でもケアレスミスを起こすことがある。そのカラーマッチングに関わる複雑な設定を自動化してしまおうという考えから生まれたのがQuick Color Match(以下QCM)だ。当然QCMはEIZO一社で作れるものでは

ない。写真を表示するためのPhotoshopの開発元であるアドビ、プリンターメーカーのキヤノンやエプソンと協力してEIZOが開発したソフトだ。詳細は次のページで紹介しているが、QCMを使用する場合、ユーザーは自分が使っているプリンターと印刷したい用紙を選択し、プリントしたいデータをQCMの画面にドラッグ&ドロップするだけだ。あとはQCMがディスプレイの表示設定、レタッチソフトやプリントプラグインの設定を自動で行ってくれる。このQCMを導入してみたいという方にオススメなのはQCMと同時に発売されたColorEdge CS2420だ。ColorEdgeのスタンダードモデルで、レタッチやプリントをす

る人に向けての性能はすべてそろっている。当然ColorEdgeシリーズなので工場出荷時にRGBの各色で0~255まですべての階調でしっかりと色調整が施されており、滑らかな階調表現が可能になっている。QCMも付属しているので、購入してすぐにQCMで作品作りに取り組みめる。

#### SPEC

- 発売日 2016年2月
  - 実勢価格 108,864円 (EIZOダイレクト価格)
- パネル：IPS(ノンフレア) / サイズ：61.1cm(24.1インチ) / 推奨解像度：1,920×1,200 / 画像密度：94ppi / 視野角：178度(水平/垂直) / 輝度：350cd/m<sup>2</sup> / コントラスト比：1000:1 / 入力端子：DisplayPort×1、HDMI×1、DVI-D×1 / USBハブ×3ポート / 大きさ：554.4(W)×396~551(H)×245(D) mm / 重さ：約7.8kg

## Quick Color Matchは簡単な手順で正しい色をプリントできるツール

ディスプレイをしっかりと調整していても、レタッチソフトやプリンタードライバの設定を間違えばディスプレイとプリントの色は合わない。こうした状況を解消すべくEIZOが用意したのが、細々とした設定をユーザーに代わって行うQuick Color Matchだ。簡単な操作をするだけでQCMが自動的に設定を変更してくれる。具体的にはディスプレイは輝度/色温度/ガンマ/色域、Photoshopではカラー設定/校正設定、プリントプラグインではプリンターと用紙のプロファイルなどが設定される。カラーマネジメントの知識を一切持たずとも、容易にカラーマッチングが実践できる画期的なツールなのだ。

### Quick Color Matchを使うのに必要な機材

<b>ディスプレイ</b> CS2420、CS270、CS230など	<b>プリンター</b> キヤノン PIXUS PRO-10S、 PIXUS PRO-100S、 imagePROGRAF PRO-1000など
<b>パソコン</b> Windows 10/8.1/8/7 ※今後のバージョンアップでMac OSにも対応予定	<b>エプソン</b> SC-PX5VII、 SC-PX3V、 SC-PX7VIIなど
<b>表示ソフト</b> Adobe Photoshop CC	※対応製品に関してはEIZOのホームページ( <a href="http://www.eizo.co.jp/products/ce/qcm/">http://www.eizo.co.jp/products/ce/qcm/</a> )を参照してください。

## STEP 1 写真をセレクトする <SELECT>



使用するプリンターと用紙をプルダウンメニューから選ぶ  
プリントしたい写真をここにドラッグ&ドロップする

メイン画面でプリンターと用紙を選んだら、あとは画像データを指定の位置にドラッグ&ドロップするだけ。これだけの操作で、以後の設定は気にすることなく作品作りに没頭できる

**Q&A 用紙の種類は増えないの?**  
現在の対応用紙はキヤノン、エプソンともに3種類のみ。EIZOでは用紙を増やすために検証作業を行っており、検証が済み次第、順次増えていく予定です

## STEP 2 レタッチする <RETOUCH>



Photoshopのカラー設定や用紙のシミュレーション設定は完了している。ディスプレイの表示はプリント用紙の色味を再現しているため、調整内容はそのままプリントに反映される

**Q&A Adobe RGBのデータでも大丈夫?**  
問題なく使える。CS2420のAdobe RGBのカバー率は99%なので色も正確だ。データのプロファイルを意識することなくプリントまで行えるのもQCMの魅力の1つだ

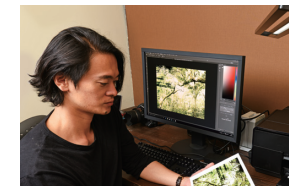
## STEP 3 プリントする <PRINT>



プリントプラグインを起動するとプリンターやプロファイルはQCMで設定したものが適用される。このステップでも設定は自動的に行われるので、特に自分で設定する必要はない

**Q&A 用紙の種類を変えても良いの?**  
初めにQCMで選んだ用紙に合わせてディスプレイの表示が調整されている。プリントプラグイン上で用紙の種類を変えると画面の表示と結果が合わなくなるのでNG

## Finish 確認する <CHECK>



プリントは光の反射によって色を表現するため、環境光によって見え方が異なってくるので高演色5,000Kの照明で見るとのがオススメだ。デスクライトを使えば手軽に評価環境を構築できる



### 大和田 良も好評価「写真家にこそ使ってほしいツールだ」

Quick Color Matchを使用するメリットは、簡単に色合わせが可能になる点はもちろんだが、個人的には複数カット以上のプリントを制作する際の色味を確実に統一できることにある。プリントではいくつ

かの設定を丁寧に組み合わせる必要があり、カット数が増えるほどミスをする可能性も高くなる。Quick Color Matchを使うとストレスのないプリント環境を維持できるだろう。

